

[004]九州大学基幹教育院LAセンターインタビューシリーズ：みつばトーク

<https://hdl.handle.net/2324/2544132>

出版情報：みつばトーク．4, pp.1-, 2019-07. Kyushu University Learning Analytics Center
バージョン：
権利関係：



みつばトーク



2018年9月よりインタビューシリーズ「みつばトーク」を開始することになりました。

授業等でどのようにM2Bシステムを活用されているかについて、様々な方々にお話を伺っていきます。

M2Bシステムを使ったことがある方にもない方にも参考になるような情報をお届けしていきます。

Moodleのおかげで授業を しやすくなったと 感じています

基幹教育院
自然科学実験系部門

Johan LAUWEREYNS 教授

■ 簡単な自己紹介と担当授業について教えてください

私は基幹教育院自然科学実験系部門に所属しています。専門は認知科学、生命倫理です。基幹教育院や共創学部、大学院システム生命科学府の授業を担当しています。



■ これまでどのような授業をされてきましたか？また、M2Bシステムを使われたことはありますか？

Maharaは少ししか使ったことがありませんが、基幹教育セミナーや課題協学科目、IUPEコースの講義といった場面でMoodleをよく使っています。8年前、九州大学に来たばかりのころはMoodleを利用しておらず、システム生命科学府とG30プログラムではいつも自分のウェブサイトでパワーポイントのファイル等をダウンロードできるようにしていました。基幹教育院でMoodleの利用が推奨されたことからMoodleの仕組みを知り便利だと思ったため、Moodleを使い始めました。

——基幹教育の授業が始まったタイミングでMoodleの利用を始められたのですね。

Moodleをどのように使っていますか？

私が最もMoodleを使っているのはIUPEの心理学の科目で、毎週の授業内容や課題、インストラクション、試験情報などの様々な情報を共有するために使っています。基本的に私の方から情報を共有するのはMoodleが便利だと感じています。さらに基幹教育セミナーでは学生からの振り返りシートの提出にもMoodleを使っています。徐々にMoodleの使い方に慣れつつありますが、まだ慣れないところもありますのでこれまでの15年間で培った授業のスタイルに基づいて動いているところもあります。

今は留学生向けの課題協学科目の授業でも利用しています。それぞれの授業セッションのまとめや課題、インストラクション、講義内容などのファイルにアクセスできるようにしています。学生の方からの情報共有にもMoodleを使っていて、基幹教育セミナーでは振り返りシートや発表課題のパワーポイントファイルをMoodleで提出してもらっています。IUPEの科目では毎週講義が始まる前に簡単なクイズをしているのですが、このクイズはやはり紙と鉛筆を使っての古いやり方でやっています。このような簡易的なものはまだ紙の方が慣れているなど感じています。最終試験も紙でエッセイを書いてもらうようにしています。また学生からのパワーポイントファイルの提出はMoodleで使っていますが、その他の連絡などはEメールを使っています。Moodleは私からファイルを共有したいときやニュースフォーラムで全員にEメールを送りたいときに便利だと考えています。

——ローレンス先生は多数の留学生を担当されていますが、留学生もMoodleを使ってくれていますか？

そうですね。設定で英語表示にすることができるので留学生も使っていますよ。

ちなみにMaharaに関しての私の意見ですが、MaharaにはMoodleを超えるメリットがあまり見えないですね。全く使っていないわけではありませんが、いつどういときに使うべきかが今のところあまりわからないです。古いやり方に慣れてるからかもしれませんが、以前コメントの共有にMaharaを使ったことがあるのですが、少人数のグループだと直接会ってミーティングをする方が簡単に意見交換できるので、意見交換にMaharaを使うのは便利かどうかかわからないと感じました。自分の記録としてはいいと思いますが、他の教員と同時にチェックしたいとか相談などはやはり対面でミーティングをする方がいいかなと思っています。うまくできるかはわかりませんが、M2Bの3つのシステムを1つのシステムに統合できるんだったらいいと思います。

——ローレンス先生はMoodleを英語で使っていて不便を感じることはありますか？

慣れてきたので特に問題を感じることはありません。強いていえば英語で使うときに限ったことではありませんが、古いデータがありすぎるのでデフォルトとしてみんなが欲しいデータだけがある状態にするのがベストだと思います。特にMaharaでは色々な情報がありすぎてかえってわからなくなることがあります。あと少し気になることは、今日Moodleのトップページの読み込みが遅いと感じました。

——3月にM2Bシステムのバージョンアップを計画していて、それによって動きが早くなると期待しています。（※このインタビューは、昨年度行われました。）

なるほどですね。他にも気になることがあって、日誌は自動的に用意されていると思うのですが、これは学生もアクセスすることができるのでしょうか？今まで学生から何もコメントがないので、このようなものがあることに先ほど気がつきました。

——学生の日誌は自動的に作られません。Moodleのページで日誌を作るというボタンがあるので、そこから授業をとっている学生さんの日誌を作ることができます。

なるほどですね。今までこのシステムを使ったことがなかったので知りませんでした。私としては、今のところ出席確認や課題、振り返りシートの記入などは全てMoodleでできているので、学生との情報共有はMoodleで十分だと思っています。

——新しい授業はMoodleを使われているということでしたが、昔からされている授業についてはいかがですか？そうした授業でMoodleを使う場合、不便さを感じますか？

今までやっていた授業については、かえってこれまで通りの動き方のままで良くて、学生との情報交換などに関してはMoodleをうまく活用していけばいいと考えています。今考えているのはPBLの授業でMoodleを利用して学生のグループ内での交流の様子をモニタリングができればいいと思っています。例えば学生5人のグループに課題を与えてどのようにそのグループが動いているかを、M2Bシステムを使って把握できる機能があれば使ってみたいです。

——M2Bシステムでグループを作ることができます。

もしできるのであれば、グループを作った上でそれぞれの学生の評価とグループの評価を同時にモニタリングできればいいと思います。例えば学生5人のグループがあるとして、グループのパフォーマンスやそれぞれの学生の貢献度が確認できて、さらにそれぞれの学生は個人の意見や振り返りシートを個人的に記入できる仕組みがあればいいなと思います。それによってグループとのコミュニケーションも、それぞれの学生とのコミュニケーションも取ることができるようになると思います。

——確かにそうですね。ローレンス先生がおっしゃったことは具体的に実現できそうな気がします。

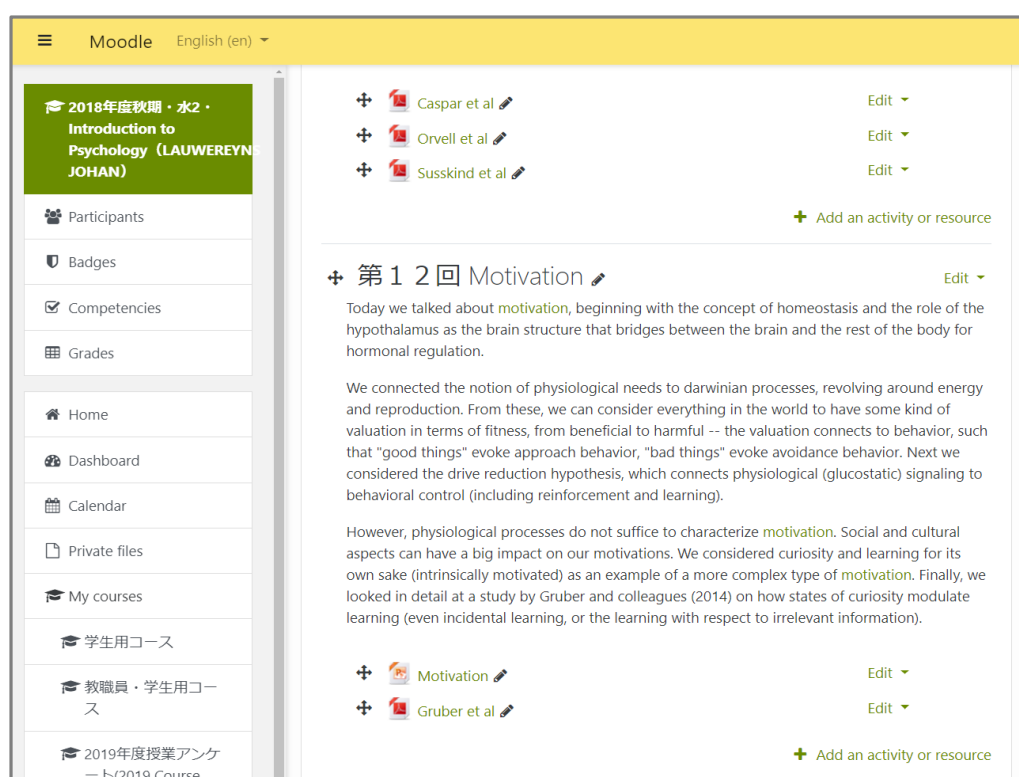
そのような仕組みがあれば使ってみたいと思います。課題協学科目はいつも紙媒体で授業を行ってききましたが、この仕組みがあればとても便利だと思います。

——Maharaでは、グループの共有スペースの作成や日誌で学生個人と先生がやりとりをすることが可能です。あとはワークショップというMoodleの機能があって、多少使い方が複雑ではありますが、ワークショップでもピアレビューができます。wikiという機能もあります。

wikiはグループのパフォーマンスとして使える気がします。

■ M2B、Moodleを使ったことがない英語ユーザの先生にメッセージをお願いします

これまでM2Bシステムのような仕組みがなかったので、情報共有等に関してはこれまでの教員経験の中で培ってきた方法があると思いますが、M2Bシステムのような便利な方法はどんどん取り入れていくべきだと思います。私自身、2~3年前からIUPEの科目でMoodleを使っています。最初は使い方に慣れず不便さや不安を感じていましたが、今ではMoodleのおかげで授業をしやすくなったと感じています。Moodleを使う前はウェブサイト等を使ってファイルの共有を行なっていましたが、今となってはMoodleの方が便利だと感じます。Moodleを使ってできることは様々で、例えば進捗のトラッキングやニュースフォーラムによって生徒にわかりやすく明確な指示をすることができます。学生としても先生からの指示がわかりやすい方がいいので、出席確認や課題、レポートはMoodleを使うのが1番だと思います*。



コース画面

〔聞き手：木實新一（基幹教育院教授 ・ LAセンター長）〕

*出席管理やレポート課題の出題、フォーラム（掲示板）の詳細については、
M2B学習支援システムの教師用マニュアルをご覧ください

(https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/pluginfile.php/232271/mod_resource/content/19/manual.html)